

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 海星学院高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒050-0072
北海道室蘭市高砂町3-7-7

E-mail kaisei@kaisei-gakuin.ed.jp

Website http://kaisei-gakuin.ed.jp/

生徒数 男子 98名 女子 136名 合計 234名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「世の光となれ」をモットーに、ESDをミッションスクールの使命と捉え、SDGsを主なテーマに持続可能な社会の担い手の育成を目標として活動している。具体的には、①SDGsに係わる学習、②SDGsに係わる活動、③国内被災地に係わる活動、④その他持続可能な社会の担い手の育成に係わる活動を行った。

① SDGsに係わる学習

教科内で実施したESDに係わる学習を15回実施した。内訳は、外部講師による講演会11、生徒による発表会2、ワークショップ1、映画鑑賞1である。このうち、SDGsに係わる学習は、外部講師による講演会7、生徒による発表会1、ワークショップ1、映画鑑賞1である。また、国連の記念日として、世界食料デー・国際女性デーを取り上げた。

世界食料デーにちなみ、10/10、FAO(国連食糧農業機関)日本事務所所長 Mbuli Charles Boliko 氏を招き、SDGsに係わる講演会を開催した。(資料1)10/23、国際協力NGO オックスファム・アメリカが考案した世界の食料格差を体験する

ワークショップ「ハンガーバンケット」をイオン（株）・（株）伊藤園の協賛で開催した。（資料 2）活動を通じて、生徒は世界の食料安全保障、難民、気候変動などについて理解を深め、さらに多様な組織がこれに取り組んでいること、また、取組に求められる人材の資質を痛感した。SDGs への意識が高揚した結果、特定 NPO 法人 TABLE FOR TWO international 主催世界食料デーキャンペーンに多数の生徒が参加し、同コンテストにおいて 2 年連続で本校生徒が受賞した。（資料 3）

国際女性デーにちなみ、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンの協力で、映画「Girl Rising ～私が決める、私の未来～」を鑑賞した。生徒は、世界の女の子の置かれた厳しい状況や、教育支援の重要性について理解を深めるとともに、自らの生き方を省察する機会を得た。（資料 4）

学外の学習活動では、JICA 北海道主催高校生国際協力プログラムに多数参加した他、生徒 1 名が OECD 日本イノベーション教育ネットワーク主催生徒国際イノベーションフォーラムに参加した。

② SDGsに係わる活動

JICA・NPO などと連携し、募金や物品収集などの SDGs 達成（主に貧困・飢餓・教育）に向けた 8 つの活動を実施した。（資料 5）これらの活動を通じ、生徒の持続可能な開発に関する価値観・主体的に考え行動する力・他者と協働する力などが培われた。

2011 年から継続する公益社団法人日本ユネスコ協会連盟主催ユネスコ世界寺子屋運動において、生徒はカンボジア王国の歴史から教育支援の必要性を学び、希望者が作成したリーフレットを市内の各教育機関、大型店などに掲示した。（資料 6）回収した葉書は室蘭ユネスコ協会に贈呈した。（資料 7）

③ 国内被災地支援に係わる活動

東日本大震災以降、NPO 法人カリタス釜石などと連携し、被災地復興に向けた 4 つの活動を実施した。これらの活動を通じ、生徒の持続可能な開発に関する価値観・他者に共感する力・想いや言葉を形にする力などが培われた。

2012 年から継続する生徒ボランティア派遣事業（資料 8）において、代表生徒 5 名は、岩手県釜石市で、傾聴を主としたボランティア活動を行い、復興の足取りや東北の現状について理解を深め、啓発ポスターを市内のバスに掲示したり（資料 9）、体験を発表した。（資料 10、11）

④ その他持続可能な社会の担い手の育成に係わる活動

地域の諸団体と連携し、生徒の持続可能な開発に関する価値観・コミュニケーション能力・奉仕の精神などの育成を目的に、幼児から高齢者まで多様な人々と交流する 25 の活動を実施した。このうち、国際交流に係わる活動は 8 つである。

（資料 12、13、14、15）7 年連続でジャパンアートマイル主催アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクトに参加し、Centros de Idiomas, Universidad Veracruzana（メキシコ）と共同で壁画を作成した。電子掲示板やメールを駆使した交流で絵画のテーマやデザインを決定し、生徒が壁画の半分の作成を担当した。この活動を通じ、今年度は特に自分とは異なる考え方を受けとめる力と相手を尊重する姿勢を生徒は培った。（資料 16、17）

※活動の詳細は本校 HP（<http://kaisei-gakuin.ed.jp/>）を参照



WS「ハンガーバンケット」



世界寺子屋運動



岩手県釜石市での活動



アートマイル壁画制作

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

映画「Girl Rising ～私が決める、私の未来～」
外務省「SDGs 広報啓発動画」ほか

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教科「宗教」をはじめ、総合的な学習の時間を活用するなど、教育課程においてESDを関連付け、外部と連携しながら、SDGs及びグローバルイシューについての基礎的な知識を得られるよう指導計画を定めた。開発教育の手法を研究し、一部でアクティブラーニングを実施している。また、生徒の自己有用感を高める目的で、単に知識の取得にとどまらないよう、カリキュラムの関連を重視した、また、生徒のそれぞれの得意分野を發揮できる多様な活動を用意し、生徒の参加機会を保障している。（資料18）

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校の分掌として委員会を設置し、ESD担当教員が配置されている。ESD担当教員は、国内外の諸機関と連携しながら、校内の既存の組織（生徒会など）を活用し、諸活動の企画立案・運営、校外の研修会への教員の参加を促すなどを行っている。現在は、教務部と連携し、課題解決型の学習を重視した教育課程・教科横断的な指導計画の立案に着手している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

生徒・保護者・教職員はもとより、学校理事などによる学校関係者を対象に、学校評価を実施し、その結果を教職員や学校関係者で共有し、ユネスコスクールとしての活動の質の向上に活用している。また、ESD担当教員による会議を定期的に関き、活動評価を行っている。明らかになった課題は、文部科学省が定めるESDの育みたい力である「体系的な思考力」「代替案の思考力」を高める指導方法の充実であり、③の通り、課題解決に向けた教育課程の立案に着手している。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校のESDに係わる活動成果の発信方法は、主に校外における生徒の発表・報告・学習成果物の掲示、ESD担当教員による実践発表、ホームページをはじめとする本校の情報媒体、新聞社をはじめとするメディアであり、その内容は多様である。今年度の本校のESDに係わる活動に関する新聞記事掲載回数は31回であった。地域において本校教育活動に対する理解が深まり、本校ESDに対する外部からの協力の申し出が増加し、生徒の活動機会が広がりを見せている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校のESDに係わる活動で連携する国内外の団体の数は、30を超える。連携する団体は、公的機関、大学、NGO、NPO、全国のユネスコ協会、企業など、多様である。平成29年9月に開設された北海道地方ESD活動推進センターともコンタクトをとりながら、次年度以降に向けた連携を模索している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度の国外のユネスコスクールとの交流実績はなく、これまでの交流実績は2校である。国内(全国)においては、ESD日本ユース・コンファレンスを核に全国のユネスコスクールと交流し、情報交換を行った。また、北海道教育大学釧路校・ESD推進センターおよび北海道ユネスコ連絡協議会を核に道内のユネスコスクールと交流し、情報交換を行った。地域活動としては、室蘭ユネスコ協会が主催するユネスコユースフォーラムに参加し、2校と交流した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールとしての様々な活動をとおして、本校の生徒の学びの場が広がった。国内外のユネスコスクールの生徒・教員・関係者をはじめ、FAOなどの公的機関、大学、NGO、全国や地域のユネスコ協会の方々との様々な出会いを得て、校外（地域～世界）への関心が高まり、学習と活動の場が広がっている。これにより、生徒は、持続可能な社会の担い手としての資質をより向上させているように見受けられる。このような本校の特色に対する地域・保護者の理解も深まっている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

次年度については、これまでの取組を継続して、外部と連携しながら、SDGsを主なテーマに持続可能な社会の担い手の育成を目標として活動を計画する。活動内容としては、今年度の活動計画をベースに、①SDGsに係わる学習、②SDGsに係わる活動、③震災被災地に係わる活動、④その他持続可能な社会の担い手の育成に係わる活動の観点から分類・精選するとともに、活動ごとに育みたい力を明確にして、引き続き学校全体としての取組を研究していく。